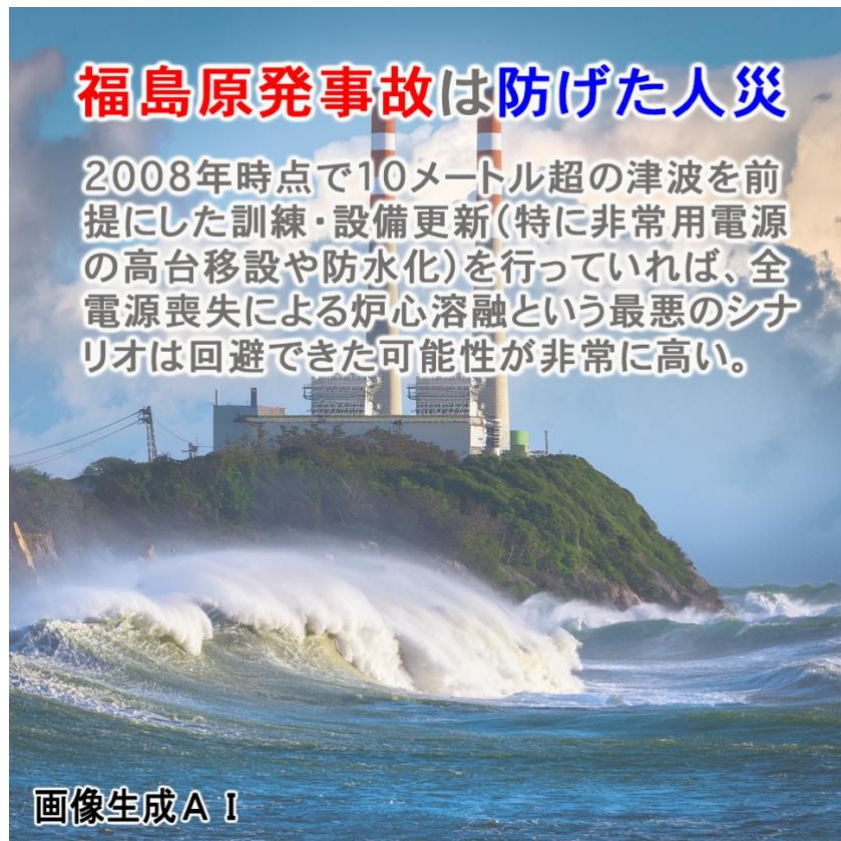


## ChatGPT に聞いてみた 福島第一原発事故は防げた

「東日本大震災で福島第一発電所の事故もし、2008 年に10メートルを超える可能性を経営陣が認識して訓練をしていれば、電源喪失のリスクの対応で発電機を高台に移していれば事故は防げた」



ChatGPT:

ご質問の内容に関しては、重要な仮定と事実に基づいて考察できます。

### 【前提事実】

1. 東日本大震災(2011 年)での福島第一原子力発電所事故は、地震と津波により全電源喪失(SBO)が発生し、冷却機能が喪失。結果として、複数の炉心溶融(メルトダウン)を引き起こしました。
2. 2008 年に東京電力社内で「10 メートルを超える津波の可能性」が技術部門から指摘されていたという事実が、後の国会事故調などでも明らかになっています。
3. 非常用ディーゼル発電機(EDG)は低地(タービン建屋地下)に設置されており、津波で水没したことが直接的な原因で冷却機能を喪失。

## 【仮定】

- 2008 年の時点で「10 メートル超の津波リスク」に真剣に向き合い、訓練・対策を講じていたとする。
- その一環として、非常用発電機を高台へ移設、あるいは防水化などのハード対策を行っていた。

## 【結論】

事故は相当程度、防げた可能性が高いです。

根拠：

1. 電源が喪失しなければ、炉心冷却は継続可能だった
  - 非常用ディーゼル発電機が機能していれば、非常用冷却装置（ECCS や RCIC）が作動し、炉心溶融は起きなかったと考えられます。
2. 過去の他の原発（女川原発など）では対策により被害が抑えられた
  - 女川原発（東北電力）は想定よりも高い場所に立地・電源配置がされており、同様の津波に襲われながらも大事故を免れました。
3. 国会事故調・民間事故調も「防げた事故」と結論
  - 複数の事故調査委員会は「想定に基づいて適切な対策をとっていれば事故は防げた」と明確に述べています。

## 【補足】なぜ対策が取られなかったのか？

- コストとリスク認識の軽視  
リスクを「あり得ない」として先送りにした企業体質。
- 規制当局（原子力安全・保安院）との癒着的な関係  
厳しい規制や勧告がなされず、事実上「自己判断」に任されていた。

## 【まとめ】

もし 2008 年時点で 10 メートル超の津波を前提にした訓練・設備更新（特に非常用電源の高台移設や防水化）を行っていたら、全電源喪失による炉心溶融という最悪のシナリオは回避できた可能性が非常に高いです。

つまり、「人災的側面」が非常に強い事故だったといえます。